



カジカの学君

Vol. 31

発行元 特定非営利活動法人 加治川ネット21

〒957-0345 新潟県新発田市小戸886-1 TEL0254-31-4111 FAX31-4088

ホームページ URL <http://www.inet-shibata.or.jp/~kjn21/> E-mail kjn21@ml.shibata.ne.jp

会費振込先 郵便局振替口座 00500-5-35812 株式会社第四銀行 新発田東支店 普通口座1196959

06年定期総会の報告

2月5日、新発田市の豊谷殿において定期総会が開催されました。「子ども達に、今より少しでもよい環境を残してやりたい」という思いから始まった活動も、早いもので10年目を迎えます。

近年、環境問題への関心が高まり、法令も変わり、自然環境に配慮した公共事業が進められようになりました。

当会も「現状掌握と提言」というスタンスを守り、地に足をつけた活動を進めていかなければなりません。

今年度は、昨年と同じく「加治川流域を見る、加治川流域を知る、加治川流域を味わう、加治川流域を楽しむ」を活動方針に掲げ、より一層、地域に根ざした活動の促進に取り組んでいきます。



～高澤大介氏 記念講演会～



この度、当会の会員でもある菊水酒造の高澤大介氏から「この地に在る蔵として」と題した講演をいただきました。日本の人口構成比、社会情勢の変化や消費者が何を望んでいるのかなど、興味深い話も多く、菊水日本酒文化研究所やReボトル（ ）の取り組みの紹介もありました。

質疑では、日本酒をたくさん飲んでも二日酔いしない方法について質問があり「日本酒のアルコール度数は高いの

で、日本酒を飲む時は傍らに水（やわらぎ水）を用意して、日本酒と水を交互に飲むと胃の中のアルコール度数が下がり、二日酔いが防止できる」とアドバイスがありました。

昔から清酒や醤油メーカーが一升ビンの再利用に取り組んできたことは知っていましたが、300mlビンの再利用について、一地方の酒造メーカーが取り組んでいたことに驚きを感じると同時に、これからも菊水を飲んで応援しようと強く思いました。

「Reボトル」について

『現在数多くの酒造メーカーより発売されている300mlピンは、ほとんどが1度きりの使用となっています。使用後のピンの一部は、粉碎処理されて、膨大なエネルギーを費やし、新しいピンとして再成形されています。』限りある資源とエネルギーを有効に活用していきたい。

”そんな想いから、菊水酒造では300mlの再利用ピンを使用した「Reボトル」を発売しました。（菊水酒造株式会社 会社案内パンフレットより）

関連情報：菊水酒造（株）HP内→ http://www.kikusui-sake.com/home/company_9.html



猿橋小学校総合学習

猿橋小学校の5年生は、一年間をととして「新発田川」の歴史や川の様子、水質などの学習を行ってきたそうです。そこで、これまでの学習を新発田川の環境の保全や改善に向けてどのような活動を行っていけばいいのか、そのヒントを探すため、昨年平成17年12月14日（水）総合学習の時間に招かれに当会の取り組みが紹介されました。



まず、最初に説明があったのは「NPO法人」という組織のこと。

NPOとは、「非営利＝お金儲けを目的としていない団体」なので、加治川ネット21ではお金をもらって働くのではなく、地域や環境のために自分に出来ることをいろいろな人たちと協力しながら、地域の環境に関する様々な活動を行っているということが話されました。

次に、当会でやっている活動が紹介されました。加治川や五十公野公園で行われる体験活動や市内で行っている調査活動のほか、今回のように学習会や総合学習のお手伝いをしていることも話しました。



また、猿橋小学校では新発田川の学習をしてきたそうなので、水（川）をととして行われている大きな自然循環のシステムについて説明し、加治川と新発田川の水質を比べながら、様々な生き物がそれぞれの役割を果たすことによって水質が保たれていること、この循環のシステムが正常に動かなくなった結果、新発田川の水質がきたなくなってしまうこと、ブラックバスなどの外来種が生態系に与える影響、新発田でも外来種が増えてきているということ、新発田にも絶滅が危惧されている貴重な生き物がいることなどをお話ししました。

さて、学習をととして活動のヒントは見つかったでしょうか？

阿賀北社会の会』ディスカッション

1月21日（土）「加治川流域の自然を生かした授業づくりについて」と題したこの講演会は、阿賀北地域の小中学校で社会科を教える先生方が中心となって構成する『阿賀北社会科の会』が開催し、当会が講師を務めました。



講演では、加治川のことや会のことなどを若月理事長から、具体的な学習取り組みを藤田理事から報告してもらいました。

藤田理事は、小中学校で『環境』をテーマに総合学習を行う場合には、対象となる学年に合わせてテーマを絞ったり、より専門的な説明を加えたりなど、様々な工夫を行っていると言っていました。また、『環境』や『自然』が自分たちの生活と深い関わりを持っていること、大小様々な生き物がいるからこそ地域の自然が保たれているということなど、実際にどのように学習を進めているのか、その授業風景を実践してもらいました。

講演終了後の質疑応答や懇親会では、参加者自らの体験談や子どもの頃の思い出話なども飛び出し、自然の中で『学ぶ』ことの楽しさに花が咲き、体験という学習が子どもたちの将来に重要なキーワードとなるのではないかと改めて感じました。最後には、参加者から活動への励ましの言葉をいただきました。

かなえ 沖・鼎研究室とのディスカッション

Vol.31

2月20日、菊水酒造（株）会議室において、東京大学、沖・鼎研究室の方々と当会との情報交換会が行われ、当会の活動や生物と地域環境のあり方などについてディスカッションを行いました。この交換会は、大学関係者や学生が菊水酒造を訪問するこの機会に、新発田の自然環境の保全活動している地元の団体を知っていただく目的で、同社代表取締役 高澤大介氏の特別の取り計らいで実現したものです。



初めに若月理事長が当会の活動目的や活動の方向性、個別の事業内容を、続いて藤田理事が、総合学習を通した自然体験活動の事例発表と、きれいな水からもたらされる多様な生き物たちの営みや自然界のあり方を紹介しました。

ディスカッションでは、「活動を通しての喜びは何ですか?」「自然環境の保全は地元と対立軸ではないのか?」「なぜ、活動をしているのか?」「田舎の子どもでも生き物を知らないの?」などの質問がありました。

今回の交流をとおして、参加された皆さんに少しでも私たちの取り組みを理解していただき、今後は、いろいろな形で東京大学の皆さんからも当会の活動に助言いただければありがたいと思っています。

菊水日本酒文化交流会に参加して

新発田を代表する優良企業である菊水酒造が、法人設立50周年を記念して建設した菊水日本酒文化研究所で、3月11日に、加治川ネットと菊水酒造との文化交流会が開催されました。

この菊水日本酒文化研究所は、酒の飲み手側に立った「良い酒」を探究し、モノとコトの融合で日本酒を面白くすることが設立の主旨ということで、日本酒文化の研究をする酒文化情報資料室や、酒作りの伝統技術の体得のための「節五郎蔵」が設置され、健康を害するものや環境を害するものを使わない建物は、訪れるものをやさしく迎えてくれます。



自然と調和した、人にやさしい建物の中で、蔵の4代目当主の高澤英介氏より菊水酒造の成り立ちについて話を伺うことが出来ました。傍目では順風満帆のように見える菊水酒造にも何度も危機があったこと、苦学しながら大学に進んだことが今の自分につながっていること、菊水のベストセラーとなった「ふなぐち」の誕生秘話、その後の酒作りのこだわり等、まるでプロジェクトXに出てくるような話は、時間の経つのを忘れさせ、予定時間を大幅に超過してしまいました。

講話の後は菊水の誇る超絶品の酒（下戸の自分には猫に小判では有りましたが）と季節の食材を使った絶品料理（こちらは大いに堪能）で酒文化?について大いに語り、大いに飲み、大いに食し大満足のひとときでありました。この企画を運営してくれた菊水酒造の高澤大介社長始め社員の皆様にただただ感謝、感謝、感謝でありました。皆さん、日本酒を大いに飲みましょう。



湖と森と人を結ぶ霞ヶ浦北浦再生百年事業 アサザプロジェクト

「11周年記念の集い」シンポジウムに参加して

2月18日(土)に茨城県牛久市内で開催された『湖と森と人を結ぶ霞ヶ浦北浦再生百年事業 アサザプロジェクト「11周年記念の集い」』シンポジウムに参加しました。

これは、アサザプロジェクトが11年目を迎えるにあたり開催されたものです。他団体の活動を参考に、良いものは加治川ネット21でも事業を行ってみてはどうかと、勉強のために理事長はじめ4名で参加してきました。

アサザプロジェクト「11周年記念の集い」ということもあり、アサザプロジェクト事業紹介が5報告あり、どれも霞ヶ浦・北浦を中心とした活動でスケールが大きく、専門のスタッフもいて活動に専念できる環境は少し羨ましいと感じました。

どの報告が加治川ネット21で参考になるかは、まだわかりませんが、今後も他団体の活動を参考に、会員の意見を聞きながら、活動に反映していきたいと思います。



ジャスコ新発田店より「バケツ贈呈」

2006年3月11日(日)、このたびイオン(株)ジャスコ新発田店で地域のボランティア活動に対する助成として取り組まれている「幸せの黄色いレシートキャンペーン」で当会に対し市民の皆さんより50万円を超えるイエローレシートいただくことが出来ました。

当会では、50万円の1%に当たる相当額のプレゼントとして、水辺の調査活動に欠かせない「バケツ」や総合学習や環境フェア等で活躍する「ハイマッキー」などを副店長の早坂さんより提供していただきました。

イオン(株)さんの御厚意に感謝いたします。

もし、会員の皆さんが「毎月11日」にジャスコ新発田店に買い物に行く機会があったらイエローレシートを加治川ネット21のボックスに入れてください。



♪ 幸せの黄色いレシートキャンペーン ♪

- イオン(株)HPより引用 -

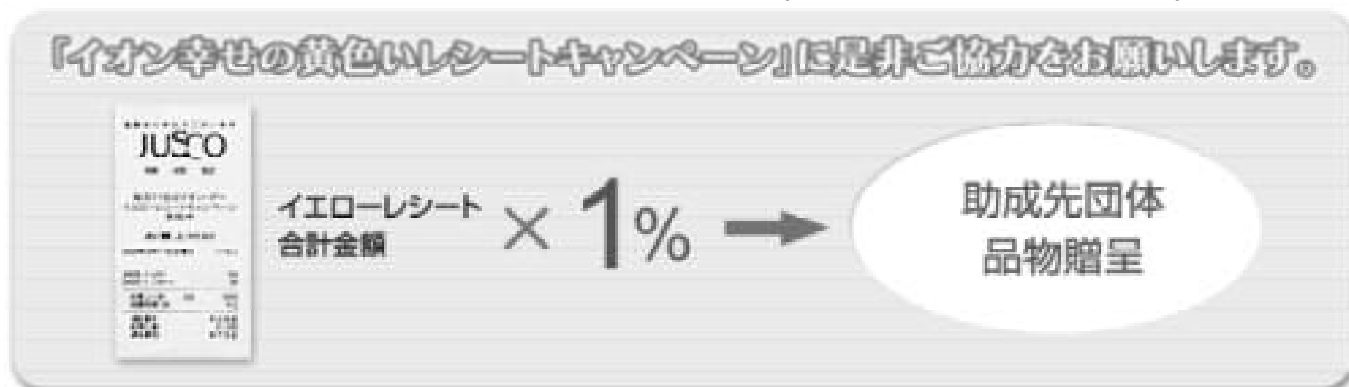
「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」は、お客さまがレジ精算時に受け取った黄色いレシートを、地域のボランティア団体名が書かれた店内備え付けのBOXへ投函しレシートのお買い上げ金額合計の1%をそれぞれの団体に還元するというシステムです。

イオン新発田店とジャスコ村上店におきましては、NPO 法人加治川ネット21も対象団体としてBOXを設けていただいています。投函BOXは、毎月11日はレジ前に設置してあり、その他の日は1階インフォメーション脇に設置してあります。

毎月11日にお買い物の際は、「NPO 法人加治川ネット21」と書いたBOXに黄色いレシートの投函をよろしくお願い致します!!

● 幸せの黄色いレシートキャンペーン

毎月 11 日の「イオン・デー」に「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」を行っています。
 毎月 11 日は、お店に、地域のボランティア団体などの名前と活動内容が書かれた投函 BOX を置いています。
 この日はお買物をされた時にお客さまにお渡しするレシートの色が、黄色になっています。
 その黄色いレシートを応援したい団体の投函 BOX にお入れください。
 お入れいただいた黄色いレシートの（お買い上げ金額）合計金額の 1% が、団体の希望する品物として
 その団体へ贈られます。皆さまのお買物が、地域のボランティア団体などのサポートにつながるしくみです。
 2002 年 8 月 20 日現在の登録団体数は 2,872 団体、投函レシートの実績は約 21 億 3,150 万円。
 その 1 % の 2,131 万円分を品物で還元させていただきました。（2002 年 2 月 11 日～ 8 月 11 日）



レジで黄色いレシートを受け取る

毎月 11 日のイオン・デーにお買い物をすると、レジ精算時に黄色いレシートが発券されます。



投函 BOX へ黄色いレシートを入れる

受け取った黄色いレシートを店内備え付けの投函 BOX へ投函します。BOX は地域のボランティア団体ごとに仕切られ活動内容が記載されています。
 応援したい団体の BOX にレシートを入れてください。



集まった黄色いレシートの合計金額を集計

集まった黄色いレシートは団体ごとに集計されレシートの合計金額が算出します。



合計金額の 1% にあたる品物を贈呈

合計金額の 1 % にあたる品物をイオンから団体に贈呈します。

例えばレシートの合計が 100 万円だった場合は 1 万円分の品物になります。お客さまがキャンペーン参加して下さったことによって多くの人が幸せになります。黄色いレシートを受け取ったらぜひ投函してください。 お客様のご負担は一切ございません。

新発田市まちづくり活動発表にて 藤田理事奮闘!!

3月4日(土)、新発田市主催による新発田市まちづくり活動支援事業公開審査会が午後1時から地域交流センターきやり館3階大ホールにおいて開催されました。

新発田市「まちづくり活動支援事業」は、市内でのまちづくり活動の

活性化と、市民との協働によるまちづくりの実現を目指し、昨年から実施されているもので、加治川ネットを含む15団体から17年度の活動発表が披露され、団体の地域貢献度、がんばり度、発展可能性について、登録団体の代表15名と一般の来場者5名、特別審査員3名で発表内容を審査しました。



加治川ネットでは、若月理事長が発表者となり、加治川流域の水質を保全することで見えるモノと、各事業から見据えた現実と展望などを話しました。例えば、基幹産業である安全・安心の米作りの源として、環境教育をとおして未来を考える活動など、6つのキーワードから見える将来像を話しました。発表の後半では、藤田理事から、いつものいで立ち(編み笠、胴長)で生き物観察会や総合学習の熱い思いを会場の皆さんに話していただきました。

このたびの審査会は、よさこいや福祉団体、本の読み聞かせなど、すごく良い活動をしている団体が数多く参加していたこともあり、審査の発表まで「ハラハラドキドキ」で審査発表を迎えました。

審査発表は、上位からの発表で、当会とNPO法人ユーマーの会が同票で1位に選んでいただくことが出来ました。皆さんの発表を聞いていると本当に遜色のない活動でした。支援金をいただくこともさることながら当会の活動を一番に選んでいただけたことがとてもうれしかったです。これも藤田理事の編み笠による奮闘によるものと感謝いたします。

このたび審査発表に参加された団体の皆さんご苦労さまでした。みなさんといろいろな市民活動で連携して行けたらいいなと考えています。今後もよろしくお願いしますね。



加治川ネット21の活動

2005年12月1日～2006年2月28日

12月の事業

- 12月01日 「天辻川いきのも・水草大移動作戦」開催
- 12月01日 ブラックバスバスターズの施設設置
- 12月03日 「加治川ネット21忘年会」開催
- 12月04日 大宮沢第一堤ブラックバスバスターズ」開催
- 12月08日 加治川ネット文化部会開催
- 12月12日 羽越河川国道事務所 打ち合わせ
- 12月15日 猿橋小学校5年生 総合学習
- 12月29日 会報発送 かじかの学君30号発行

1月の事業

- 1月05日 理事会、会計監査
- 1月11日 羽越河川国道事務所 打ち合わせ

- 1月12日 「私の加治川実行委員会」
- 1月12日 役員会(三役、事務局打ち合わせ)
- 1月15日 2006年総会資料作成
- 1月23日 阿賀北社会の会「講演会」

2月の事業

- 2月05日 06年定例総会開催
- 2月09日 加治川の恵み事業推進委員会:県振興局(理事長)
- 2月13日 「私の加治川実行委員会」開催
- 2月18日 「アサザプロジェクト11周年の集い」5名参加
- 2月20日 東京大学「沖・鼎研究室との意見交換会」5名参加
- 2月28日 国土交通省羽越河川国道事務所 次年度プラン協議

当会関連記事

水土里ネットとようらごう 2006 年 1 月号より

自然環境 地域住民とのかかわりあい



太新地区圃場整備事業
生態調査（地域住民・加治川キッド21）



農地等高度利用促進事業

中ノ井普田地区（排水路取直71m）
水路内でのタニシの保護、飯杉組（地域関係者）

これからの 土地改良区（事業）と



21世紀創造運動

土地改良施設の有効利用の活性化を図るため
ブラックバス捕獲作戦（地元・八坂会）

3. 21世紀創造運動とようらごう

待ってうれしい花いちもんめ



絶滅が危惧されるイバラトミヨ

「イバラトミヨ」という魚を
ご存じですか？自然状態では絶
滅した「アキ」に次ぐ、絶滅危
惧1種に指定されている貴重な
魚です。新潟県レッドア
ーフラックでも「新発
田市にあった生態地
は、最近はずっと
空っぽで寂しい」と
と記載されている
のですが、平成十
四年八月、市内松
浦地区の八日町で行
われた、北陸農政局長
催の「田んぼの生き物調



査」の中で見つけられました。
市内では「イシヤシヤ」と呼
ばれているようですが、湧水の
わく、水のきれいな用水路に生
息し、水草を利用して繁殖をし
るユニークな魚として知らさ
れています。分布の南限が新潟
県で、湧水の豊富な五泉市や胎
内市にもわずかに生息していま
す。また、秋田県や山形県では
天然記念物に指定され、大切に
保護されています。
イバラトミヨの生息できる環
境は、豊かな農村環境を
示す「地域の宝」であ
り、ひいては食の安
全やブランド化とい
った農産物の付加
価値化につながる
物だと思えます。
「新発田のイバラト
ミヨ」も大切にし
ていきたいですね。
（加治川キッド21）

待たれてうれしい花いちもんめ

新発田市農業委員会 2006 年 2 月号

